

## 式辞

風のそよぎも秋の気配が感じられる今日の佳き日に、ご来賓の本校育友会会長佐藤真佐美様ならびに育友会役員の皆様、そして保護者様にご臨席をいただき、平成二十五年度前期卒業証書授与式を挙行できますことを、心よりお礼申し上げます。

久村光君、君は兵庫県立阪神昆陽高等学校卒業生の、栄えある第一号です。まことにおめでとうございます。また、保護者様には、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。

久村君は高等学校における所定の課程を終え、本日でたく卒業の日を迎えました。君が、本校の教育活動に対して、常に前向きに一生懸命取り組んできた姿勢は、全職員が賞賛しています。一方で、高校生活を振り返って、苦しんだこと、悩んだこと、困難なことも多々あったのではと思います。君はそれを乗り越えて、今日という日に至りました。これまでの努力に対し、心からの拍手を送るものです。

高校卒業という、人生の大きな節目を迎えた久村君に、私の思うところを三つほど述べて、はなむけの言葉にしたいと思えます。その第一は、自分の目標をしっかりと持ちこ

とです。久村君の将来の目標は、英語を使つて人助けができる仕事、例えば通訳に就くことと聞いております。それは仕事を通じて世の中に貢献しようとする、すばらしい目標だと思います。それを実現するためには、目標を心の中にしっかりと据え、情熱の炎でもつて、常に燃やし続けることです。人は目標を持つことで、自分自身に眠るエネルギーを十分に発動させることができます。「絶対に実現するのだ」という強い思いを持ち続けていってください。

第二は、本校の校訓でもある「日常実践」ということです。「日常実践」という校訓には、「挨拶する、美化や整頓に努める、約束や時間を守るなど、生き方の基本ともいえるきマナーやルールを、日常生活の中で常に実践していくことで、人間的な成長を目指す」という意味を込めています。目標の実現のためには、しっかりと勉強して、知識や技能を身につけるのが必要なことは当然です。しかし、いくら知識や技能が豊かになっても、人間としての力が伴わなければ、厳しい世の中では通用していきません。どうか、常に日常実践すること、人間としての力を磨いていってください。

第三は、「いつも明るく元気であれ」ということです。本校のキャッチフレーズは「阪神昆陽は、明るく元気な君を育てます」というものです。私たちの人生は、いつも楽しいことや嬉しいことばかりではありません。実際は、苦しいことや辛いことも多いのが、人生というものです。この人生という大きな荒

れ海を航海していくために必要なのは、常に心を明るく元気に保ち、積極的に前向きに取り組んでいくことです。特に、苦しい時、辛い時にこそ、「負けるものか」という気持ちで、明るく元気に、自分を奮い立たせていくてください。

以上の三点を、今後に処する指針として贈りたいと思います。どうか阪神昆陽高等学校初の卒業生としての誇りを胸に、二十一世紀をたくましく生きてほしいと願っています。久村君の輝かしい前途に、幸多かれと祈念してやみません。

最後になりましたが、ご来賓ならびに保護者の皆様から、本校に寄せられましたご厚情とご支援に対しまして、厚くお礼申し上げます。そして、今後とも変わらぬご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

平成二十五年九月二十日

兵庫県立阪神昆陽高等学校校長

尾崎文雄